

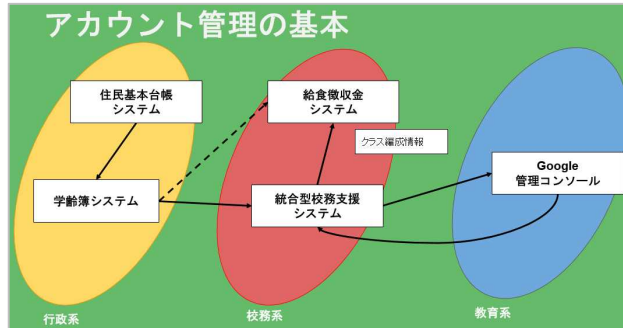
年度更新情報 【奈良市】

○ 資料の概要

奈良市では、児童生徒用アカウントの運用管理の一括処理は、教育委員会で集約しています。また、年度更新業務について考慮すべきこととして、端末の台数の調整、「進級生・新入生・卒業生」それぞれのアカウントの取扱い、転出や転入の取扱いについて、項目を分けて整理しています。

○ 資料の目次（全9ページ）

- 1ページ 運用ルール
- 2ページ アカウント管理の基本
- 3ページ アカントルール
- 4ページ 考慮すべきこと
- 5ページ 端末の台数の調整
- 6ページ 進級生アカウントの取扱い
- 7ページ 卒業生アカウントの取扱い
- 8ページ 新入生アカウントの取扱い
- 9ページ まとめ



奈良市では、統合型校務支援システムを運用しており、行政系・校務系・教育系、それぞれのシステム情報を互いに連携させることで、アカウントの運用管理に活かしています。

新入生アカウントの取扱い

- 入学者名簿の暫定版の入手
- 入学者アカウント一括作成の準備
- 校務支援システム学級編成、入学者名簿確定
- アカウント一括作成
- 教育委員会より学校へ提供
- 児童生徒への端末とアカウントの配布

○ 奈良市の担当者から

進級時や卒業時に行うデータやアカウントの引継ぎ処理など、一括で行うことがふさわしい場面では、教育委員会が一括で処理をするようにしました。学校の先生方が授業等で端末を有効に活用できるように、また、年度更新業務に係る学校の負担ができるだけ少なくなるように留意しました。

年度更新に係る処理の期間をできるだけ少なくして、学校においては、1日も早く端末を利用開始できるように、スケジュール感を意識して年度更新作業を行いました。

○ 奈良市の学校数・児童生徒数

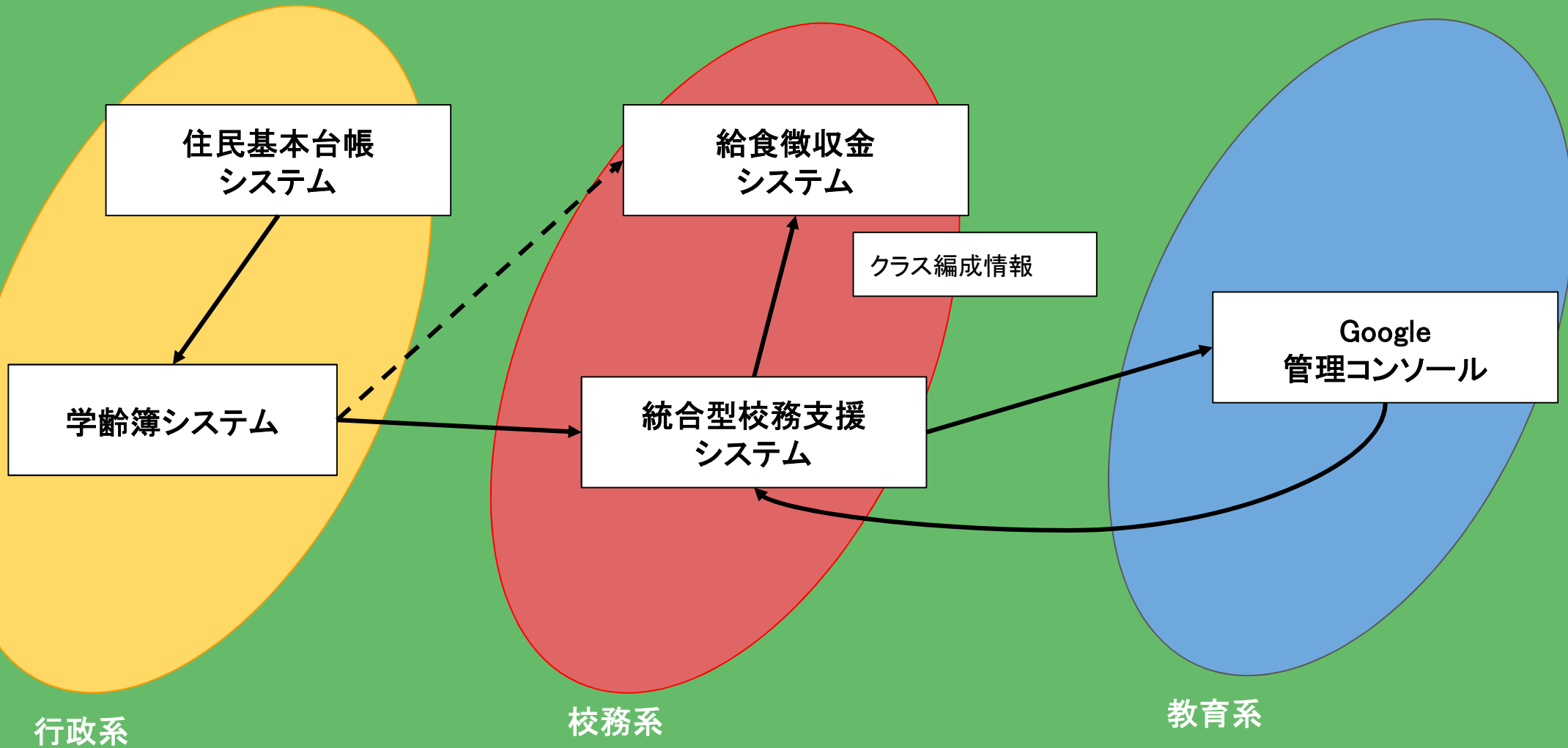
小学校 43校 児童数 15,325名
 中学校 21校 生徒数 7,186名
 高等学校 1校 生徒数 1,077名
 （令和3年5月1日現在）

年度更新の前に 運用ルール

- 統合型校務支援システムを運用している
- 卒業生の端末を次年度の入学生に割り当てる
小6→新小1、中3→新中1
※小中一貫校のみ中3→新小1
- 1人1台同じ端末 Chromebook を利用している

学齢簿→校務支援システムの連携を拡充して
教育系アカウントの運用管理に活かす

アカウント管理の基本



年度更新の前に アカウトルール

- Google Workspace for Educationのアカウントは
小学校から高等学校まで継続利用
- @マーク前は識別できない文字列で運用
- 属性情報において、クラス情報を保有
- 必須の拡張機能とアプリは「自動インストール」有効

県域共通ドメインの強みを活かしていく

考慮すべきはどんなこと？

1. 端末の台数の調整
2. 進級生アカウントの取扱い
3. 新入生アカウントの取扱い
4. 卒業生アカウントの取扱い
5. 転出・転入の取扱い

端末の台数の調整

- 次年度の児童生徒の**暫定人数の確認**
- **卒業予定者**にお願いして**端末のチェック**
- 教職員による**現物チェックと
余剰見込み端末を教育委員会**で回収
- 教育委員会にて点検の上、**不足見込みの学校へ**端末移動

予備機等が確保されており、不足しない場合
概ねスムーズに進められる

進級生アカウントの取扱い

- 校務支援システムにて学級編成情報確定
- アカウントの属性情報にクラス情報を一括適用
- 教育委員会より学校へ提供

進級時はクラス情報を適用するのみ
一括適用することが合理的 教育委員会が支援

卒業生アカウントの取扱い

- 小学校の卒業生
 - 校務支援システムにより進学先中学校情報を連携
 - アカウントに新学校の所属を一括反映
- 中学校の卒業生
 - 県域規定の進学者組織へアカウントを一括移動
- 高校の卒業生、その他私学進学者や転出
 - 卒業式までにデータエクスポート手順の案内
 - 卒業生組織への一括移動

組織的な運用は教育委員会が一括で処理することで
関係者への影響を最小化し、確実に実現する

新入生アカウントの取扱い

- 入学者名簿の**暫定版**の入手
- 入学者アカウント一括作成の準備
- 校務支援システム**学級編成、入学者名簿確定**
- アカウント一括作成
- 教育委員会より学校へ提供
- 児童生徒への**端末とアカウントの配布**

新小学校1年生の期待に応える
学校の取組を支援するために

まとめ

- Chromebookにかかる作業は事実上なし
→ フルクラウドプラットフォームのメリット
- アカウントの運用管理の一括処理は教育委員会で集約
→ 1日も早く確実に利用開始できるようにする
- 卒業生や転出者処理を学校任せにしない
→ セキュリティリスクにつながるリスクを最小化

学校の負担をできる限り小さくし、
児童生徒と教職員に還元できる仕組みが必要不可欠